



東京多摩プロバスニュース

第 115号

■事務局: 〒206-0002 東京都多摩市一ノ宮 1-17-18 登坂征一郎方 ■電話: 042-375-5878



■編集・発行: 広報委員会 2025. 1. 8.

■ホームページ: tokyo-tama-probusclub.com

楽しくなければプロバスではない



ごあいさつ

小林務会長

明けましておめでとうございます。

昨年正月早々の能登半島地震発生に驚き心を痛めました。今なお避難所生活されている皆様厳しい寒さでの新年を迎えている事でしょう。1日も早い復興を祈ります。

さて、私事でございますが1941年2月2日巳年生まれ、今年の2月2日は暫くぶりに節分、豆まきの日になります。お陰様で無事84回目の誕生日を迎えます。人生100年時代と言われる昨今、元気に新年を迎えた事に一入の喜びを感じております。昨年暮れに私の結婚以来加入した互助会より送付された今年の暦の小冊子に、巳年生まれの運勢が記されていました。

「昭和16年巳年生まれ、貴方の運勢、何事も最初が肝心で、目的や方向性を考えてから一步踏み出せば、厄災を除く事が出来ます。人間関係では、他人の言動は気にせず人は人、自分は自分とすることが大切です。仕事面では仕事に集中できず思うように作業が進みませんが、謙虚な姿勢で対応すればトラブルを避ける事が出来ます。金銭面では収入よりも出費が多くなるので、家計簿や小遣い帳で金銭の管理をしましょう。健康面では、毎日少しでもストレッチや体操をして、普段より歩く習慣をつけましょう。建築建墓、増改築、開業、移転、投資、跡目継承は凶」とありました。信ずる者は救われる、今年も自身の健康に留意し楽しみながら活動に参加する所存です。

安穏な年でありますよう祈念致します

理 念

1. 豊かな人生経験を
生かし地域社会に奉
仕する
2. 活力ある高齢社会
を創造する
3. 会員同士の交流と
意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教
的、非営利的である
こととする



奈良原公園の南西方面には富士山が望める。春には両側の桜並木の桜見物で賑わう。

トピックス

◎地域奉仕活動の一環として、多摩市社会福祉協議会主催の歳末助け合い募金運動に、当クラブから12月1日、13日に延べ6人が参加。

◎クラブ間交流として

- ①多摩地域3クラブ合同ゴルフ大会に3名が参加。
- ②横濱プロバス倶楽部主催のゴルフ大会に3名参加。
- ③横濱プロバス倶楽部のBBQ大会4名が参加。

◎QRコードを読み取り 当ニュース
のデジタル版が閲覧できます。



◇◇◇ 幹事・委員会報告 ◇◇◇

1. 幹事報告

小島明幹事

- 1) 多摩地区 3 プロバスクラブ(八王子・日野・多摩)合同ゴルフ大会 10月30日(木)、長竹カントリークラブにて、3名参加
- 2) 横浜プロバス倶楽部 BBQ 大会、11月10日(日)、4名参加。
- 3) 横浜プロバス倶楽部主催のゴルフ大会、11月25日(月)、大井松田のチェックメイトカントリークラブに3名が参加。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

片倉満委員長

- 1) 第245回 11月7日(木)定例会、
於 関・一つむぎ館第3会議室
・出席：8名、欠席：1名(会員数9名+休会員1名)
・主たる次第：会長挨拶、幹事報告後、①会則等改定後の会員、休会、会友数発表、②各委員会及び事務局報告、③案件討議、④卓話：岡崎倫子会員「アパレル業界の変化と仕事を振り返る」 詳細3頁参照
- 2) 第246回 12月4日(水)定例会、
於 関戸公民館8階 第3学習室
・出席：8名、欠席：1名(会員数9名+休会員1名)
・主たる次第：会長挨拶、幹事報告後、①各委員会報告、②討議、③卓話：増山敏夫会員「建築家視点による寝殿造りを舞台にした大河ドラマ『光る君へ』解説」 詳細4頁参照
・今年も聖蹟桜ヶ丘駅付近にて12月1日及び13日の両日、多摩市社会福祉協議会主催の「歳末助け合い街頭募金活動」に当クラブから延べ6名が協力参加。

2.2. 研修・親睦委員会

片倉満委員長

- 1) 12月4日定例会終了後、忘年会を実施、10名参加。
詳細右段「忘年会」
- 2) 今後も奇数月定例会前の昼食会は実施します。
- 3) 千葉房総方面日帰りバス旅行：1月27日(月)京王観光バス旅は5名が参加します。

2.3. 広報委員会

伊藤健一委員長

- 1) プロバスニュース115号は1月8日発行予定。
- 2) 当クラブホームページの更新は遅滞していたが、ホームページ管理会社エスセブン代表の村崎様にご足労いただき相談(登坂、伊藤と)、後日、JIMDOソフトの使い方をオンラインでご教授いただいた。今後、ホームページの更新に生かしたい。
- 3) PROBUS Globalの12月号ニュース(英文)を日本語に翻訳し関係各プロバスクラブへメールし閲覧をお願いした。またPROBUS Globalのファーロン会長からも求められ送付した。ご協力いただいた各クラブの皆様へ感謝申し上げます。 詳細6頁参照

2.4. 事務局報告

登坂征一郎会員

- 1) 八王子PC：プロバスだより第347号(10月10日)
・『私の健康管理』橋本鋼二氏

- 2) ①日野PC：プロバスだより第164号(9月19日発行)
・全日本プロバス協議会全国大会総会の報告
- ②日野PC：プロバスだより第165号(10月19日)
・『私の昭和』後藤一郎氏 アジアの植民地解放
- 3) 埼玉浮き城PC：2024年新体制の紹介
- 4) 大阪PC：会報第398号(11月13日発行)
・近況報告「北アルプス山行」
- 5) 多摩市国際交流センター：ふれんどりーたま News11月号 No. 258、毎月10日発行
・イヤヤーエンドパーティー 12月8日(日)

◇◇◇ 忘年会 ◇◇◇

忘年会報告

研修・親睦委員会片倉満委員長

今年も昨年同様に秋が短く、思いのほか早く忘年会の当日がやってきた。「楽しくなければプロバスではない」の同好の士の集いであるが、酒量はめっきり少なくなっている。

12月4日定例会終了後の16時過ぎから京王百貨店聖蹟桜ヶ丘店8階、食事処「つきじ植むら」にて行われた。久方ぶりにお元氣な姿を伺うことができた高村弘毅会員をはじめ、阪東熙子・藤寄喬子各会友、神谷央子氏のご参加をいただいた。美味しい和牛すき焼き鍋を囲んで会話に花がさいたが、今年の忘年会参加が最後かもしれないとの発言があった。高齢となった参加者には楽しく話せる機会が年毎に少なくなること、人の定めであるが残念である。命かぎりあり、しかし、巳年は元氣一杯にプロバスクラブライフを皆で送りたいものである。



◇◇◇ 新会員の紹介 ◇◇◇

堀井義昭会員

堀井義昭さんを詳しく知りえたのは私が地域コミセン活動を始めた20年位前になります。ご自身は電気工事士の資格者であり多摩市にて25年間家電店を経営する経営者のお一人として地域の信頼を得ておられました。その後、セコムの工事会社に変更され、現在は経営をご子息に任せ、得意の民謡を披露しながら地域貢献活動に取り組みされておられます。多摩市文化団体連合会に所属され、多摩市内外での民謡公演に取り組みんでいます。そんな折、多摩市VITAホールにて民謡を披露する場面に私が聴衆として参加したことを機に、文化活動の意見交換やプロバス活動参加等お願いすることとなりました。現在は多摩市民謡連盟会長として多忙な活動をされております。



(紹介者 片倉満会員)

業界の変化と仕事を振り返る

岡崎倫子会員

私はアパレルメーカーでデザイナーとして仕事をスタート、婦人服・服飾品のデザインを数年経験した後、ハンドバッグのデザインを専門分野と決める。企画の仕事は、まずトレンドを分析するために情報収集を行う。毎年春・秋にミラノで開催される製品展示会の視察や、ミラノ・パリ・ロンドンの市場調査、インターカラー発表の流行色、トレンドの方向性を分析する専門機関からの情報などを参考に、テーマを決めてデザインを行う。



そうした中、80年代中盤からブランドブームに伴い、有名ブランドとのデザインライセンス(デザイン提携)が隆盛となり、私も企画折衝責任者として複数のブランドに携わった。デザインライセンスに於ける商品企画は、ライセンサー(商標使用を許諾する側)からシーズン毎に提供される資料(テーマ、素材、カラー等)を基に、企画デザインを作成し許諾を得る。許諾を得たデザインのサンプルを作成し、再度許諾を得た後に商品化となる。

海外ブランドは概ね許諾に要するプロセスが簡略であったが、国内のデザイナーブランドは緻密であった。私が携わったブランドの中でも、「HK」や「HM」では、シーズン毎に多くの試作と打合わせを重ね、商品化までに膨大な時間を要したが、数多くのヒット商品が生まれたことは大きな励みとなった。

アパレル商品の販売方法は、80年代までは販売を専業とする百貨店や専門店への卸売りが主流であった。百貨店との取引形態は、派遣販売員付き委託販売(販売員を売場に派遣、売れない商品は返品可能)であった。

そうした中、90年代以降 SPA 形態(Speciality store retailer of Private label Apparel の略。製造小売業。素材調達から、商品の企画、生産、販売まで全ての工程を行う企業)が登場し、駅ビルやショッピングセンターへの出店に活路を見出した事により、百貨店の競争力は低下した。SPA 形態では、流通の中間マージンが発生しない為、コスト削減ができ、価格を抑えることが出来る。代表的なブランドはユニクロ他多数。

また、90年代後半からファストファッション(最新の流行を取り入れながら、低価格に抑えた衣料品を短いサイクルで、世界的に大量生産・販売するブランド。殆どが SPA 形態)が台頭。代表的なブランドは世界のアパレル企業売上第 1 位 ZARA(スペイン)や同 2 位の H&M(スウェーデン)など。

更に、2000 年代中盤ころから EC 取引(オンライン販売)が始まり、コロナ禍の影響で需要が一気に伸びた。アパレル全体の売上に対する EC 化率は、コロナ禍以前では約 14%であったが、近年 21%を超え、更に伸び続けている。

2008 年以降リーマンショックによる影響で、消費環境は大きく変化、高級ブランド購買層は激減、消費者の多くは安価な等身大ファッションを求めるようになった。このニーズに応えたのが SPA 形態(ファストファッション含む)の企業群やオンライン販売など、流通での中間マージンが発生しない業態である。

アパレルの市場規模は、ピークの 91 年には 14.7 兆円であったが、近年 10 兆円を割るも供給量は倍増しており、単価の下落は顕著である。

ファストファッションや SPA 形態の「安い、おしゃれ、早い」洋服により、人々が気軽にファッションを楽しめるようになった。しかし過度な価格競争は様々な問題を起している。日本の洋服は約 98%が海外製造(中国、ベトナム、バングラデシュ、カンボジアなど)されている。現地での労働環境は悪く、低賃金、長時間労働など、人権、不当労働が問題となっている。

2013 年 4 月バングラデシュ首都ダッカ近郊サバールで 8 階建て複合商業ビルのラナプラザが突然崩壊し、1000 人以上の死者と 2500 人以上の負傷者が出た。ずさんな安全管理の中で繰り返された違法増築が原因とされている。このビルには 5 つの縫製工場があり PRADA や GUCCI などが作られており、高級ブランドを下支えする工場が危険な建物に置かれていた過酷な労働環境が白日の下にさらされた。バングラデシュの既製服輸出総額は 245 億米ドルで輸出入の 80%を占め、400 万人の雇用を生んでいる。惨事から 1 ヶ月後の 2013/5/23 に 2 つの国際労働組合、4 つのバングラデシュ国内の労働組合連合、40 以上の既製服企業が当事者になって「バングラデシュの火災と建物の安全のための協定」を締結、署名企業はその後 200 を超えた。この事故は工場の安全管理における意識変化の契機となった。

更に、アパレルは製造過程での環境汚染は元より、大量生産、大量購入による大量廃棄も問題となっている。

ファストファッションの負の側面に対して、新たなエシカルファッション(倫理的ファッション)という視点が提唱されている。オーガニックコットンの様な環境に負荷の低い素材を用い、フェアトレードなど児童労働や人権に配慮した生産・流通を目指したファッションである。

2015 年に SDGs が国連総会で採択されて以降、様々な企業が「適量生産、適量購入、循環利用」の循環モデルの商品開発に取り組んでいる。SDGs な製品作りの実現には、需要を変えることが必要不可欠である。消費者として、そうした取り組みを行う企業の商品を購入する、長く愛用する、修理して使うということを考える。

服を手放す際、資源ごみで出す事によるリユースの活用やリサイクルショップ、フリマアプリによる市場への再流通といった方法もある。パッケージや包装資材を断り、無駄な生産や廃棄を削減するなど、購入や処分時の再資源化などエシカルな消費を考えていきたい。

「光る君へ」

この平安絵巻・NHK 大河ドラマは大変面白い。中宮定子のために枕草子を書いた清少納言と、中宮彰子のために源氏物語を書いた紫式部が会った史実が無いという事、道長と紫式部が男女の関係にあったという史実が無いという二点で些かという向き

増山敏夫会員



もあります。在り得ると考えた方がドラマとして面白い。ドラマは、藤原氏院政が確立して行く平安時代中期。下級貴族・漢文学者の藤原為時の娘紫式部が道長のために、道長の娘中宮彰子に源氏物語を書きます。始めは家（細やかな寝殿造り）で構想を練り、書き始める。宮中にスペースを与えられ、宮中の宮使えを勤めながら、物語を書き進めます。

源氏物語五十四帖は百年程前の平安前期、嵯峨天皇が政の中心の御代をモデルにしています。臣下に下がった天皇の御子光源氏が主人公の物語が前半、後半は光源氏の死後、源氏の子や孫の物語、スーパースター光源氏に比べ、みな小粒で普通の人間になっていく。そして物語は諦念が色濃くなり終る。現実と似ている様で非なる物語なのが面白い所です。当時、紙は貴重でした。最高級の紙を道長から贈られ、紫式部が喜ぶシーンが印象的でした。物語を書いた紙が芸術的価値を更に高める。

物語を中宮彰子から贈られた一条天皇も深く関心を寄せ、彰子のサロンの女官達にも読む事を許す。回し読みする女官達のサロンは活況を呈します。紫式部は道長の要望に応えた訳ですが、作家紫式部は書くと言う事で自我が目覚めて行く。道長は自分の娘を次々と入内させ、息子頼道を関白にして、道長の藤原氏の撰閣政治を盤石にして行く。そして「此の世をば我が世とぞ思ふ望月の欠けたることも無しと思へば」と歌ったのです。

寝殿造り

私は建築家なので、このドラマの舞台になっている寝殿造りに興味を持ちました。中々良く出来ています。廂（広縁）と中を隔てる御簾、廂と坪庭或は庭の関係等、ドラマはここでの動きが殆どです。宮中の会議もここで行われるのです。貴族の館も同じ寝殿造りです。御簾の中は貴族のプライベートゾーンです。

木造建築は飛鳥、奈良時代に仏教伝来と共に大陸から渡来した工人達の技術により齎されました。遣隋使、遣唐使が活躍し、律令制国家が確立した時代です。文字は漢字の時代。平安時代に入り、仮名文字が生まれ、仮名文字による和文が生まれ、清少納言の枕草子、紫式部の源氏物語が生まれました。いま私達が使う言葉の多くが、この時代の言葉・広辞苑を引くと、出典＝源氏となって

います。この物語が語り継がれたお陰でしょう。

さて、寝殿造りは貴族の住いですが、平安時代の日本化の流れの中で、日本人の生活から生まれた独特の住いです。平安時代の遺構はありませんが、後世の物として京都御所があります。また、スライドでお見せした「春日権現記絵」は九世紀頃の貴族の館の工事現場の絵です。

平安時代の寝殿造りの工事現場
鋸と鉋に注意！



出典：春日権現記絵より

どんな道具を使って、どんな加工をしていたかがある程度分ります。

木造建築は材料＝木材と道具の関係が重要です。切り出した木材を建築の部材に加工して建築を組み立てるからです。この絵を見ると、寝殿造りを作る工人達が当時の大工道具を使って、柱の様な部材に墨指して墨を打っている様子、板をチョウナで削り出している様子、板を軒に立掛けて乾燥させている様子、右上に棟梁の様な人もいます。長い竿の様な棒を持つのは間尺（ケンジャク）と言い、建てる建築物の高さ（床、軒、鴨居等）を印した物指しです。その姿の横に地面に細い棒が打込んで糸が張ってあるのは水糸…建物の隅の位置を示す直角です。女、子供もいます。工人達の家族、昔も子供達には格好の遊び場だったのでしょう。ここで大事なのは、私達が知る大工道具で大切なオガと鉋が無い事です。オガは縦引きノコのことです。木を縦に引いて四角の柱や板を引くのに使います。当時はこの絵の様に、ノミで割った厚い板をチョウナで斫り、槍鉋で仕上げなければならなかった。ドラマの舞台は太い二本の丸柱の廂（広縁）です。寝殿造りはこの中は天井の無い大きなガランドウです。一段上った廂との間に御簾が下がり、中はプライベート空間です。宮中であれば天皇、中宮の玉座になる高い置畳が置かれます。

つまり「寝殿造り」は、床と屋根と柱の「装置空間」だという事です。太い丸柱は、多分丸太から丸く削る方が効率的で楽だったからでしょう。

ガランドウの建物の中に様々な「道具」を考案して、生活したのです。これが日本人の「装置空間」と季節に応じた「道具」という素晴らしい住み方の一つのルーツになって行ったのです。足袋の様な上足、置畳、御簾、襖障子、櫃、衝立、屏風、灯明、飾棚などが生まれました。その為の蔵も寝殿の後ろに有りました。

民謡よもやま話

私は昭和 21 年に生まれました。秋田県の中央、秋田平野の南側で、現在は秋田空港のある所で生まれ、テレビが普及するまでは、楽しみは民謡だけでした。5 才の時、結婚式で聞いた、秋田長持唄に感動し、民謡に興味を持ちました。またお盆とかお祭りの時は、お宮に舞台を作り秋田で有名な民謡歌手が来てショーが展開され、その思い出は今でも忘れられません。感動の 2 時間でした。

18 才で高校を卒業し昭和 41 年に東芝タンガロイに就職し、川崎市に住みました。近くに民謡を教えてくれる教室があり、飛び込んで行きました。三味線、尺八と先生の唄を聞いて、興奮して、その夜は眠れませんでした。

昭和 47 年、現在の住まいの所で電器店を開業しました。東芝系列の地域店です。お客様から民謡のケイコ場を紹介してもらい、民謡のスタートを切りました。先生は民謡歌手の大場いたる先生でした。日本は高度経済成長の中で、私のように東北から東京近郊に沢山の人が就職し、民謡ブームが起きました。私の場合は、唄う目的ではなく、民謡から離れたくないだけでした。大場いたる先生も生徒は 200 人以上おり、やるのが派手になり、リサイタルを開催して、お金がかかりすぎる為、生徒からクレームが出て、結果的に解散することになってしまいました。

私達の責任者である佐藤さんが、またプロ歌手の先生を探してきて、新たに会を再開しました。藤山進先生で秋田出身の若手民謡歌手でした。新宿から京王線に乗って、毎回真面目に月 3 回通い続けてきています。あれから 40 数年経っています。1 度も休んだことはありませんでした。私の場合、音の高さがずれてしまうので、尺八

堀井義昭会員



の音をよく聞いて唄いなさいとよく言われました。その事で納得がいかず、責任者であった佐藤さんと一緒に、先生の会とは別に孫弟子の会として、信喜会を発足させました。私はそれからは、一生懸命唄にとり組むことになりました。唄もすこしずつ上達するようになりました。実はもう 1 人信喜会を発足する時に力になってくれた澤口さんがおります。その方がいなかったら信喜会がスタート出来なかったと思う。その方は小野寺先生とも親しくつきあって、私をその先生のケイコ場につれて行ってくれました。今まで藤山先生と佐藤先生と小野寺先生の 3 ヶ所にケイコに通いました。小野寺先生のケイコは厳しくて、大変でしたが発声をしっかり教えてくれて、目が覚める思いでした。



それから澤口さんから、子供達に伝統文化をつなげて行ってほしいと教わり、今年で 6 年目になりますが、文化庁から援助をうけて、続けております。大事なことは子供の時に、どう接するかです。大変苦労していますが、若い人が育たなければ、やがて消滅してしまいます。



命ある限り、子供達に伝統文化を残していきたいと願っております。

◇◇◇ サークル活動 ◇◇◇

ゴルフ部報告

小島明会員

1. 10 月 30 日、雨や台風で流れていたコンペが三度目の正直で長竹カントリークラブにて 3 クラブ合同コンペが開催されました。優勝、廣瀬昌英 準優勝、小島 明 第三位、黒澤直明(日野)の結果でした。
2. 11 月 25 日、横濱プロバス倶楽部主催のゴルフコンペが大井松田のチェックメイトカントリークラブで行われました。一時間半かけて到着、天気は快晴で富士山が壮大でした。

結果は横濱の持田さんが優勝、私が準優勝、小林会長が第三位という成績でした。



◇◇◇ 横濱 PC バーベキュー大会 ◇◇◇

BBQ 大会報告

伊藤健一会員

2024 年 11 月 10 日(日)、横濱プロバス倶楽部主催の恒例バーベキュー大会に招かれ、多摩 PC からは小島さんの車に同乗し登坂、片倉、伊藤の 4 名が参加。お天気もまずまずで、時々パラパラ程度の雨。焼き肉、ウインナー、ブロッコリーなど新鮮な野菜等、おいしかったです。日本酒、ビール、酎ハイ、ノンアルコール飲料、つまみ類など用意され、横濱 PC の面々と歓談しながらの BBQ 大会は最高潮。最後に全員で記念撮影して終了。

お世話いただいた横濱 PC の皆様ありがとうございました。



◇◇◇ ニコニコハッピーBOX ◇◇◇

12月：拠金 5,000円
小島明会員：良いお天気が続きますので！
小林務会員：昨年12月1日多摩市社会福祉協議会主催恒例の歳末支えあい募金活動に今年も参加、聖蹟桜ヶ丘駅西口広場にて通行する方々に募金を呼びかけました。活動に応じて頂いた皆様の励ましの声と温かいお気持ちに感動しました。
登坂征一郎会員：12/1 多摩市社会福祉協議会の歳末助け合い運動に参加させていただきました。

市民の善意に感謝！！ 又、横濱プロバス倶楽部のBBQ大会に楽しく参加させていただきました。
伊藤健一会員：地球温暖化問題で二酸化炭素原因説には以前から疑問を抱き、その考えが非科学的で間違いであることまで分かったが、では何が原因か？最近見つけた筑波大学名誉教授田中博氏の研究では、過去の平均気温上昇はヒートアイランド現象の影響が含まれ、それを除けば実際はごくわずかで、太陽活動の変動が原因と考えれば十分説明が見つかることが分かった。

◇◇◇ 寄稿(2) ◇◇◇

人心新歳月
今年は西暦2025年で、干支とは『きのとみいっし』と云い、大正以来114年目、昭和以来100年目で、動物は蛇年です。訓読みでは、「へび」、古語では「へみ」と云い、音読みでは、「ジャ」又は「ダ」と読みます。日本では、白蛇が弁財天の化身とされており、お能の衣装、鱗文等に用いられ「蛇(ジャ)の目文」と呼ばれています。能楽で用いる、この三角形を配列した文様の多くは、鬼女等の衣装に用いられる事が、多々ありますが、日常私共が着ている小紋として着る時はオメデタイ時に着用します。



阪東熙子会友

終わりに、蛇にまつわる慣用句を二三記して、今回の寄稿とします。
うわばみ=大酒飲み。 虎頭蛇尾=始めだけ勢いがあり終り弱る事。 蛇稽古=春に出て来て秋の末に地下にもどるから、長続きしない事。 鬼が出るか蛇が出るかは予測出来ない事。等です。

◇◇◇ 世界のプロバスクラブ ◇◇◇

PROBUS Global ニュース12月号 伊藤健一会員

このたびPG ニュースレター12月号(英文)を日本語に翻訳した所、リチャード・ファーロン会長らの御計らいでPGのサイトに掲載して頂きました(下記QRコード)。

会長あいさつ・・・P1 ファーロン会長(カナダ)
PROBUS Globalの目的、使命について、「プログラムを通じて人々を結びつけることを目的として設計されており、退職後の生活を充実させるためのサポートと充実した環境を提供」

論説・・・P2 編集長メアリーさん(豪州)の寄稿
「私たち高齢者は、寿命が尽きかけているため、絶滅危惧種・・・プロバスは孤独感を和らげ、私たちを活動的に保ち、頭を明晰に保ちます。」

プロバスクラブの隠れた宣伝方法・・・P3
我がクラブにも役に立つ情報が得られるかも？
ゴルフ・・・P10 ベルギーのプロバスクラブは毎年、オランダとフランスを招きゴルフコンペをしているというお話。ゴルフ好きの諸氏は参戦してみたいはいかが？

その他、ニュースの中身をぜひご一読下さい。
右のQRコードを読み取り、
「日本語のニュースレターへようこそ」から



◇◇◇ 歳末助け合い運動 ◇◇◇

地域ささえあい募金 小島明会員
12月1日、13日の二日間、歳末助け合い運動、地域ささえあい募金が聖蹟桜ヶ丘駅前で行われました。この運動は多摩市社会福祉協議会の主催で、地域の自治会、住宅管理組合、サロン活動などの助成金などに使われます。又、子供食堂などの食材の提供などにも使われます。当プロバスクラブからは、小林会長はじめ、登坂、片倉、伊藤と筆者の計5名が募金活動に参加しました。私は二日間で友人に何人か会い、おかげ様で6,000円超の募金をいただきました。又、偶然にも鈴木泰弘さんに会い募金をいただきました。



◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

年が明けて巳年、巻頭言に小林会長が巳年の運勢を述べておりますが、阪東会友の巳年に因んだ寄稿など、今年こそは平穏な年であってと願っております。
堀井新会員が早速寄稿いただき、民謡への並々ならぬ情熱が伝わり、増々のご活躍を願っております。
スローガンに沿って楽しくと、昼食会・忘年会はたまたゴルフなど他クラブとの交流や年末の社会福祉協議会主催の助けあい募金運動の参加などよく動きました。
卓話では、岡崎会員のアパレル業界での活躍と業界の動向について感銘深く、また、増山会員の「光る君へ」の舞台の寝殿作りなど建築家の立場で審いていただき、興味深く聞かせていただきました。
最後に、伊藤会員のPROBUS Global世界のプロバスクラブの動向を期待しております。(登坂征一郎会員記)